

3

持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着

3-1 環境学習

- 環境課題について気づきや学びを得た個人が主体的な行動を起こすとともに、行動を始めた人たちがつながって社会の課題を解決していくことで、持続可能な社会づくりが進展する、「人育て」と「社会づくり」の双方がかみ合った歯車のように連動して進むような取組を進めます。
- 環境学習に関する情報を一元的に把握し、効率的な情報提供や共有化に努めるとともに、地域の特性を活かした多様な環境学習の機会の充実や取組の広がりを図るために、地域で環境学習を担う各主体の交流や連携のための仕組みづくりを進めます。



環境学習のギアモデル

3-2 環境とのつながり・関わり

- 環境に配慮したライフスタイルやビジネススタイルへの転換に関して普及啓発を行います。
- ビワイチやエコツーリズム等観光の振興や福祉政策などの他分野との連携により、環境配慮行動につながる取組の多様化・充実を図ります。
- 県民や事業者に対するグリーン購入の普及拡大を引き続き図るとともに、環境に配慮した製品やサービスを提供する事業者の評価・選択につながる取組を進めます。



鈴鹿山系の「日本コバ」でのスノーシューハイク

3-3 環境インフラ等

- 下水道について、地震対策、浸水対策や不明水対策等、防災・減災対策に取り組むとともに、今後の改築更新費の低減、平準化を図りながら、持続可能な下水道の経営を目指します。
- 治山施設について、森林が持つ多面的機能にも着目しながら、災害に強い施設整備を進めます。

施工前



施工後



高島市朽木村井における復旧治山事業

3-4 調査研究・技術開発

- 環境に関係する行政部局と県の試験研究機関で運営する「琵琶湖環境研究推進機構」において、関係機関が連携して、課題解決に向けた研究を進めます。
- 琵琶湖環境科学研究センター内に設置された国立環境研究所琵琶湖分室等の関係機関と連携し、琵琶湖の課題解決に向けた研究を進めます。
- 水環境や大気環境における課題の把握や環境リスクの低減に向け、継続的に環境を監視し、状況を評価するとともに、その結果を発信します。



水質調査船「びわかせ」



船上での水質調査

4 国際的な協調と協力

- 多様な主体の協働、パートナーシップによって経済発展と環境保全を両立させた総合的な取組である「琵琶湖モデル」を、経済発展に伴う環境汚染が懸念されるアジア諸国を中心に発信します。
- 世界湖沼会議や世界水フォーラム等への参画を通して、世界の湖沼保全に貢献するとともに、環境保全の核となる人材を育成します。



第17回世界湖沼会議（平成30年10月）

「琵琶湖モデル」とは？

琵琶湖の環境保全において、石けん運動をはじめとする県民の努力、富栄養化防止条例の制定等による排出規制、下水道等環境インフラの整備などの公共事業、事業者による技術開発と排出削減等により、琵琶湖に流入する栄養塩が削減され、水環境が改善されました。

このような取組に見られるような、多様な主体の協働、パートナーシップによって経済発展と環境保全を両立させた総合的な取組を、滋賀県では「琵琶湖モデル」と呼んでいます。



合成洗剤の追放を目指した石けん運動（1970年代）